

# 宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

さくらのトンネル  
みたいだね！



おおきな えほん、  
おもしろそうだなあ！



ゆうぐが  
いっぱいあるよ、  
いっしょに  
あそぼう！



みんないっしょに  
レッツゴー！



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人  
**日本宝くじ協会**  
<https://jla-takarakuji.or.jp/>

# クラシックって楽しいな！

(楽譜にまつわるエトセトラ)

絵画や彫刻と違って  
音楽は演奏しても残らないんじゃ。  
楽譜は、音楽を後世に伝えるための  
作曲家や演奏家たちの  
努力の結晶なんじゃああ〜♪



 公益社団法人国際音楽交流協会

〒602-0894 京都市上京区上御霊仲町 457-10  
TEL: 075-414-1311 URL: <http://www.imea.or.jp>

このパンフレットは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



# これがオペラの楽譜だ！

プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」の全編408ページに及ぶ楽譜の1ページ

## 単

一の楽器で演奏されるものからオーケストラや歌手等、大人数によって演奏されるオペラまで、世の中には様々な楽曲がある。ここでは、オペラを参考に楽譜の基本を紹介する。



わたしには全く理解  
できんのじゃあぁあ！

1	ト音記号	記号の書き出しがト音(ソ)の位置を示す。高音域に使われる。
2	ハ音記号	記号の書き出しがハ音(ファ)の位置を示す。低音域に使われる。
3	八音記号	記号の中心がハ音(ド)の位置。ヴィオラなど中音域。
4	4分休符	4分音符を一拍としたとき、1拍分の休み
5	8分休符	4分音符を一拍としたとき、8分音符分の休み
6	16分休符	4分音符を一拍としたとき、16分音符分の休み
7	全休符	4分音符を一拍としたとき4拍分、つまり1小節間すべて休止
8	スラー	音と音をなめらかにつなげて演奏する
9	アクセント	その音だけ強く
10	クレッシェンド	だんだん強く
11	調号	調を表し、シャープ4つはホ長調もしくは嬰八短調

青字部分は歌詞

A	poco rall.	時間をかけて少し遅く
B	a tempo cres. ed incalz. un poco	元の速さでだんだん強く、そしてやや追い立てるように
C	poco allarg.	やや遅くしながら強く
D	con violenza	激しく
E	pizz.	弦を指ではじいて
F	arco	弓を使って

## 楽

譜を見ると、そこには音符や休符以外の表記があることに気づく。例えば良く目にする「andante」というのもその一つ。作曲家は楽譜を通して演奏家へ様々な意図を伝えようとするが、音符や休符だけでは伝えきれないことも多い。こういった場合に比較的短い単語でイメージを伝えるために用いられる言葉を「楽語」と言う。

「andante」は「歩くように」と訳されるがこの解釈は容易でない。「歩くように」と一言で言っても、それが「自動車に乗る」に対してなのか「立ち止まる」に対してなのかによってイメージは随分異なる。ちなみに、正解は「停止する」に対してであり「前進する」に近い。従って、「andante」には「音楽を停滞させないように演奏して欲しい」という作曲家の思いが込められているのである。

さて、「andante」=「歩くように」ということはわかったが、次に「どのように歩くのか?」という疑問が生じる。楽語の大半はイタリア語であるが、イタリア人の歩き方と日本人の歩き方は同じだろうか? 欧米人は背筋をまっすぐに伸ばし大股で前進する。その歩き方には「前に進む」という強い意志さえ感じられる。一方我々日本人が歩く時はどちらかというと足の裏で土をベタベタ踏むという感じである。このように、イタリア語を母語としない私たちにとって、その微妙な意味合いを理解するのは簡単ではない。

「楽語」とはそもそも音楽のために生まれた言葉ではないが、本当の意味を理解するためには、音楽だけでなくその国の歴史や文化までも知る必要がある。例えば、日本語の「しみじみ」や「わびさび」という言葉を外国人に説明することが非常に難しいのと似ている。



WABI  
SABI??

**楽** 譜と言えば五線譜に音符が書いてあり、これによって音の高さやリズムがわかる。しかもルールは万国共通で、どこの国の音楽家が見ても理解できる。今では当然のことのようだが、初めからこの形だったわけではない。

**楽** 譜が誕生する以前、楽曲は口頭で伝えたり、また人の演奏を耳で聞いて真似したりされていた。単純な楽曲であればこれで良かったが、規模が大きくなったり旋律が複雑になっていったりするにつれて、こういった方法では対応しきれなくなった。絵画や彫刻などと違い、音楽は一度演奏されると消えてなくなってしまう。「こういう楽曲があった」という、楽曲の存在自体を後世に伝え、また演奏できるようにするために何らかの形で記録する必要があった。こういった理由で文字や記号を使ってこれらのことを書き残したというのが「楽譜」の起源である。

## 私にとっての楽譜

ナターリヤ・スクリャーピナ  
オペラ歌手(ソプラノ)  
元グネーシン劇場オペラスタジオソリスト



私は小さい頃、母に連れられピアノの先生の所で音楽を勉強しました。先生は私に、楽譜とは何か、どうやって読むのかを教えてくださいました。私はいつもラジオから聞こえる音楽に興味津々でした。音楽を聴いていると、ひらめいたり、楽しい気持ちになったり、繊細な気持ちになったり、時には悲しくなったりもしました。初めて楽譜を見た時、目がまんまるになるほど驚き、そして興味を持ちました。でも、楽譜を見ただけでは作者が私に何を伝えたいのか全く理解できませんでした。子供の頃から私の周りには音楽が溢れていました。私は歌い、ピアノを弾き、踊りました。でも、私の中にずっとあった音楽に対する主な認識は「音楽は特別なもの」ということでした。楽譜は作曲家の真の伝承者です。楽譜を通じて私たちは作品と作曲者の意図に触れることができます。音楽に携わっていない人たちは音楽家がどのように楽譜を読むのか理解できないと思います。一つ一つの音符にも全て独自の意味、雰囲気、色があります。それらを正しく理解できるようになるまで何年もかかりました。楽譜を通して作品の真の意味を理解するのは大変ですが素晴らしい作業で、私はこの作業が大好きです。歌手として好きな作業をすることができる私は好運です。作品を学びながら、楽譜を勉強し、ピアノで弾き、伴奏で歌い、曲を覚え、長いリハーサルを経て、やっと聴衆の前で演奏することができます。いつも全ての中心にあるのが楽譜です!

**完** 全な形で楽譜が現存する世界最古の楽曲とされているのは、トルコで発掘された「セイキロスの墓碑銘」と呼ばれるもので、紀元前2世紀ごろに作られたと言われる。この楽曲はセイキロスという人物の墓に書かれており、セイキロスが夫人に捧げた歌だと考えられている。

**歌** 詞を紹介するが、今読んでも哲学的で心に響く。紀元前2世紀の人でも現代の我々も、人としての根本的な部分は変わってないのだと気づかされる。



生きている間は輝いてください  
決して思い悩んだりしないでください  
人生はほんのつかの間ですから  
そして時はいつか終わりを  
求めてくるものですから

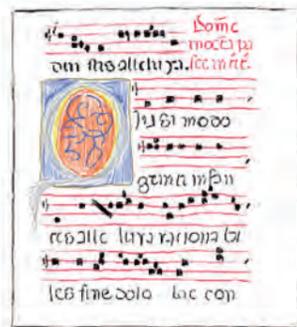


YouTube

セイキロス石碑

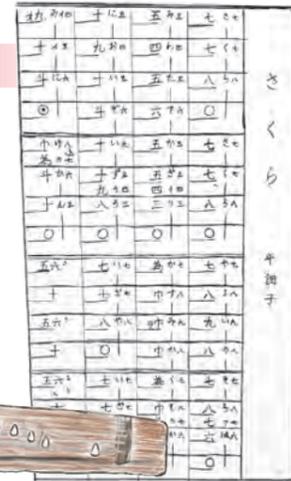
### ●装飾が施された楽譜

昔のヨーロッパでは、楽譜は演奏するためのものではなく、権力者が己の財力を誇示するためのツールとしての役割を果たしていた。例えばイタリアのトリノにある図書館に所蔵されている楽譜で、1434年にキプロス島の王女アンヌが、トリノのサヴォイア家に嫁入りの際プレゼントされたもの等がある。楽譜が読めず音楽の内容がわからない人にも、財産的価値を付加することによってそれを遺したいと思わせるような工夫が施されている。非常に美しい装飾により芸術品としても価値の高いものとなっている。

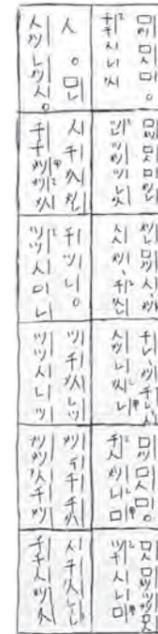


**こ** のような古代ギリシャに似た記譜の仕方をしているものが我が国にもある。琴や沖縄の三線の楽譜がそうであり、文字や数字、記号が用いられている。

琴楽譜



尺八楽譜



**現** 在の楽譜で使用される音符の原型が現れたのは9世紀頃で「ネウマ」と呼ばれる符号であった。それはキリスト教の礼拝の中で歌われる伝統的なお祈りの歌、つまりグレゴリオ聖歌を歌う際の旋律を書き留めたものである。聖歌は何世紀にもわたり歌われてきたが、それ以前は口頭で伝えられていた。ネウマ譜は演奏法というよりは声の高さや長さ、間の取り方を記録したものである。歌詞の上に記号がメモ書きされ、言葉のアクセントやニュアンスを伝える役目を果たした。これにより記憶違いが解消され、誰でも正しく歌えるようになった。一方で、この記譜では音の上がり下がりや表現することはできても、正確な音の高さやリズムを表すことまではできなかった。

11 11世紀になると「譜線ネウマ」が登場し4本の譜線が用いられるようになった。そして音部記号(ト音記号やヘ音記号など)も書かれるようになり、正確な音の高さ等も表現できるようになった。更に、その後、音の長さがわかる定量記譜法が登場することで、リズムまで楽譜に書き込むことができるようになった。これは13世紀後半のことであった。



ネウマ譜

# 五線譜以外の楽譜

## タブラチュア譜

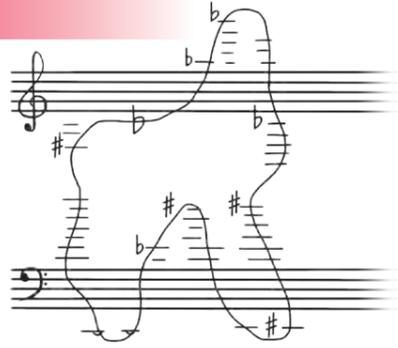
楽器固有の奏法を文字や数字で表示するもの。ギターに代表されるフレット楽器のスコアに用いられる。1507年にタブラチュア譜による世界初のリュートの曲集が出版された。弦を押さえる指のポジションが記号化されており、音高と音長が示されていることもあって、現代的なタブラチュアの元祖といえる。この時代はイタリア・スペイン・フランス・ドイツなどでリュート演奏が盛んに行われたが、これに相まってタブラチュア譜も各地で独自の発展を遂げた。

ギターでは異なる弦で同じ高さの音を出せるが、それぞれ音色や経済性(どれだけ効率的に指を動かせるか)が異なる。タブラチュア譜によって初心者でも試行錯誤することなく最適なポジションで弾けるのは大きな利点である。一方で、タブラチュア譜は五線譜と違い、楽典の知識を持っていても調性や和音を直感的に把握することが難しく、そのために和声を加えるなどのアレンジを行うには適していない。



## 図形楽譜

自由な図形などを使って書かれた楽譜。時間と音程を表した空間の中で線や幾何学図形などを用いて音を表す。芸術性のある視覚効果を狙ったものや、固定した時間軸と音程軸で表した空間に長い四角の図形によって音を表したもので様々。20世紀になると19世紀までのいわゆる五線記譜法を前提としていた音楽の体系が大きく変化し、作曲家の思い描く音の形、新しい表現の内容がうまく示せなくなり、記譜法と音楽の実態との間に少しずつ食い違いが生じた。このため、五線譜では表現しきれない現代音楽の世界観を表現するために発案された。それまでの「正確に譜面を読む力」とは別のもので、そのビジュアルによって自分の内部で鳴らされる音を自由に楽しむ。



## 点字楽譜

アルファベットを6つの点の組み合わせで表現する点字を考案したルイ・ブライユによって、視覚障がい者のために点字で記譜された楽譜。音の高さや長さ、指使いなどが6つの点の組み合わせで決められる。もともと教会でパイプオルガンの演奏をしていたブライユによる考案のため、初期から完成度が高かったとされる。



音符その他各種記号のすべてが進行にそって一列に並べられている。音符の上下や横に置かれる音符以外の記号は、種類によって音符の前に置くか、後に置くかが決まっている。例えば、「反復記号の始め」、「速度記号」、「強弱記号」、「臨時記号」(シャープやフラットなど)、「連符記号」、「音列記号」(異なるオクターブを明記し音の高さを指示)などは音符の前に、一方で、「反復記号の終わり」、「付点」、「ブレス」、「終止線」などは音符の後に置かれる。

読者の皆さんは楽しんでくれたかの？ 本誌を読んだ感想や、今後こんな内容を取り上げて欲しい等の意見があれば、是非教えて欲しいものじゃ！ 皆さんと共に楽しいパンフレットが作ればワシも嬉しいんじゃ！  
ワシへの連絡は [hakase@imea.or.jp](mailto:hakase@imea.or.jp)  
へメールを送ってくれば いいんじゃぞ！

「クラシックって楽しいな！」シリーズに関連する動画をたくさん紹介しているんじゃ！小さい子はパパやママと一緒に観るんじゃぞ！



## ～楽譜面白話あれこれ～

### ①世界一短い曲

デスメタルバンドであるナパーム・デスが作曲。その長さは1.316秒でギネス認定されている。

### ②世界一長い曲

クラシック音楽ではオペラに長い作品が多くみられる。代表的なものにワーグナーの『ニーベルングの指輪』があり15時間かかるものが4日間に亘って演奏される。

また、ジョン・ケージの『Organ<sup>2</sup>/ASLSP(As Slow as Possible = できる限りゆっくり)』の演奏時間は639年である。ジョン・ケージが亡くなった後2001年からドイツのブキアルディ教会で演奏が開始された。639年という演奏時間はこの教会にオルガンが初めて設置された1361年から数えて2000年までの時間を表している。現在もこの教会で演奏が続いていて、いつでもだれでも聞きに行くことが可能。初めの1年半は無音、2003年に最初のコードが演奏され、翌年1音加えた次のコードが、そして2006年ようやく3つ目のコードが演奏された。

更に、ジェム・ファイナーが作曲した『Longplayer』という曲は、20分20秒の曲をベースにコンピュータが簡単なアルゴリズムによって自動的にバリエーションを加えていく曲である。曲を弾き終えるのに必要な時間は1000年にも及ぶ。1999年12月31日から演奏が始まり2999年に演奏が終わる予定で、その後はまた最初から繰り返すことになっている。

### ③世界一長いピアノ曲

サティの『VEXATION(=いやがらせ)』。1分20秒程度の曲だが、840回の繰り返し。休憩なしで弾き続けても18時間以上かかるので複数人が交代しながら演奏する。一人で演奏に挑戦したピーター・エヴァンスは595回目で幻覚症状に見舞われ演奏を完遂できなかった。ちなみにサティ本人は演奏したこともなければ演奏を聴いてもいない。サティの没後38年たって初演された。



## 個人賛助会員のごあんない

気軽に一流のクラシック音楽に触れる機会を、日本の隅々にまで提供することを目的に、当協会では1992年から2020年までの29年間で、北海道から沖縄県に至るまで47全都道府県132市区町村において364回のコンサートを開催して参りました(2020年は社会情勢を鑑み全公演中止)。全てのコンサートは、日本政府関係各省庁や開催各地の地方公共団体をはじめ、各種団体、民間企業のご支援等により、入場無料(一部低廉な入場料による公演を含む)として開催することができました。コンサートに参加された国民の皆様

からは、「とても良いコンサートであった」と高い評価を頂いております。また、当協会は平成26年10月に公益社団法人の認定を受け、より活発な活動を目指しているところです。公益法人制度改革を経て、より一層の法人自立が求められている中、この素晴らしい事業の永遠の存続と更なる発展を期して、一人でも多くの国民の皆様方に、個人賛助会員へのご入会を通じて、当協会の活動をご支援頂きたくお願い申し上げます。

【個人賛助会員に関する詳しいお問合せはコチラ】 ⇨ <http://www.imea.or.jp/web/support>

様々な楽譜の動画を

YouTube で公開中!

日露交歓コンサート公式



クラシックって楽しいな!  
(楽譜にまつわるエトセトラ)

制作：公益社団法人国際音楽交流協会  
大阪ガス株式会社  
株式会社大原の里  
影近設備工業株式会社  
ダイキン工業株式会社  
本願寺  
井村屋グループ株式会社  
助成：一般財団法人日本宝くじ協会  
協力：株式会社コスモ・アーツアンドテクニクス  
挿絵：指宿京  
発行：2021年8月